

今月の15首

佐佐木幸綱・選

椋鳥も巢に帰りゆく夕暮の橘通り息子と帰る

人間の匂いを消せず立っている三頭身と握手をしたり

地球儀は我が家にあらず球体を回すことなく子らは育てり

二階よりのぞけば二羽のヒナの顔鳩のゆたかな胸よりのぞく

川床に向かい合いつつ鮎食めば君の背後の青葉かがやく

明け暮れの霧にこもりて心音のふるへるやうなとほきかなかな

壁に映る階段の影を人間の影がくだりてゆくまた一つ

夕暮れの川のむこうは赤いから、こつちこつちと兄さんが呼ぶ

布引きの海につつと裁ち鋏を入れるがごとく船は進めり

白樺の樹にはりつきて赤げらが天つ光を叩きていたり

目覚むれば世は仄暗く、病むわれを包める家はやはらかくあり

やすやすと両手をあげて この世に来て二ヶ月経たぬ人の静けさ

水たまり消してゆくのが文明と乾いた街をバスに見ており

何となく擦ってしまう癖残るお腹の中に吾子もう不在

いちにのさんで父は湯舟に移されるもはや土管の重みのなくて

大口 玲子

鈴木 陽美

久松 洋一

矢野 良彦

今井 洋子

斎藤佐知子

谷岡 亜紀

上原 良美

越智 敦子

今泉 進

松岡 秀明

駒田 晶子

細溝 洋子

堤 幸子

藤島 秀憲